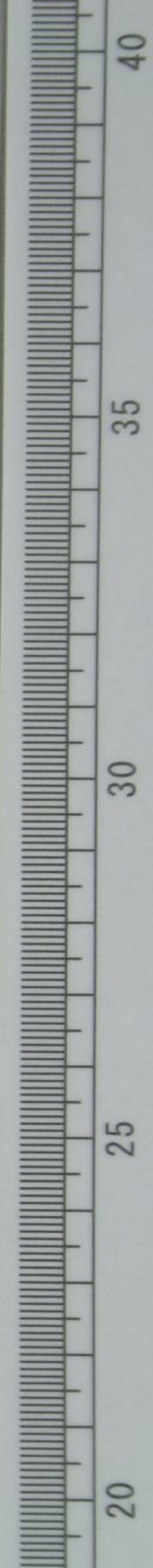




片一覽  
下り船之部  
 上

~~F~~  
 70  
 3

逍遙文庫  
 文庫6  
 1881  
 3



淀川

兩岸

地  
6  
3  
一覽

下船之序

二冊

曉晴之相若  
東川半の島



日上活地後  
朝徳澤仰年  
萬戸氏相去  
存三代風

紅  
子  
門  
樂  
長  
標  
齋



文庫6  
1881  
3

三條橋

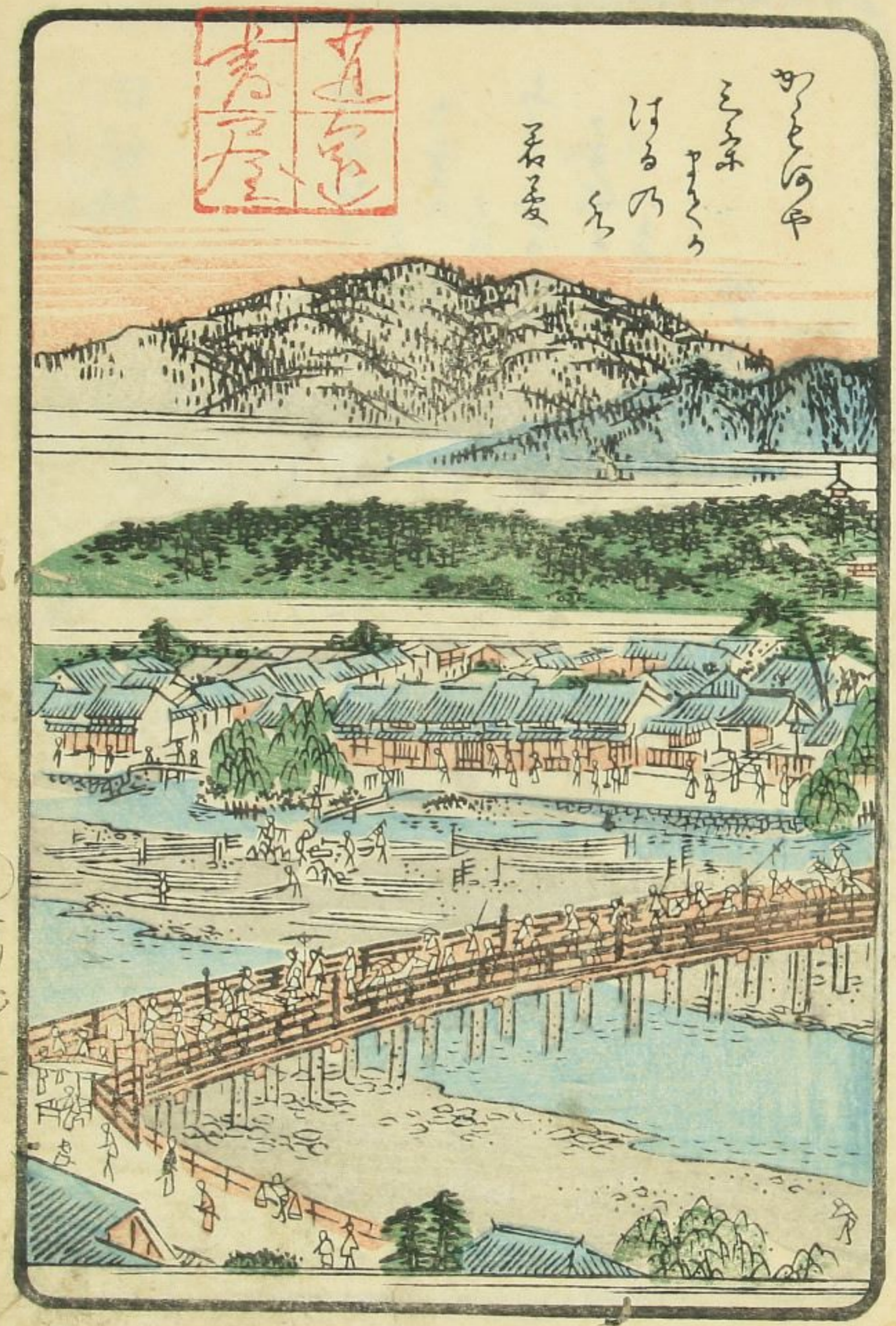
三條橋  
梅家  
左の舟  
右の舟

東  
大久保  
地蔵  
六

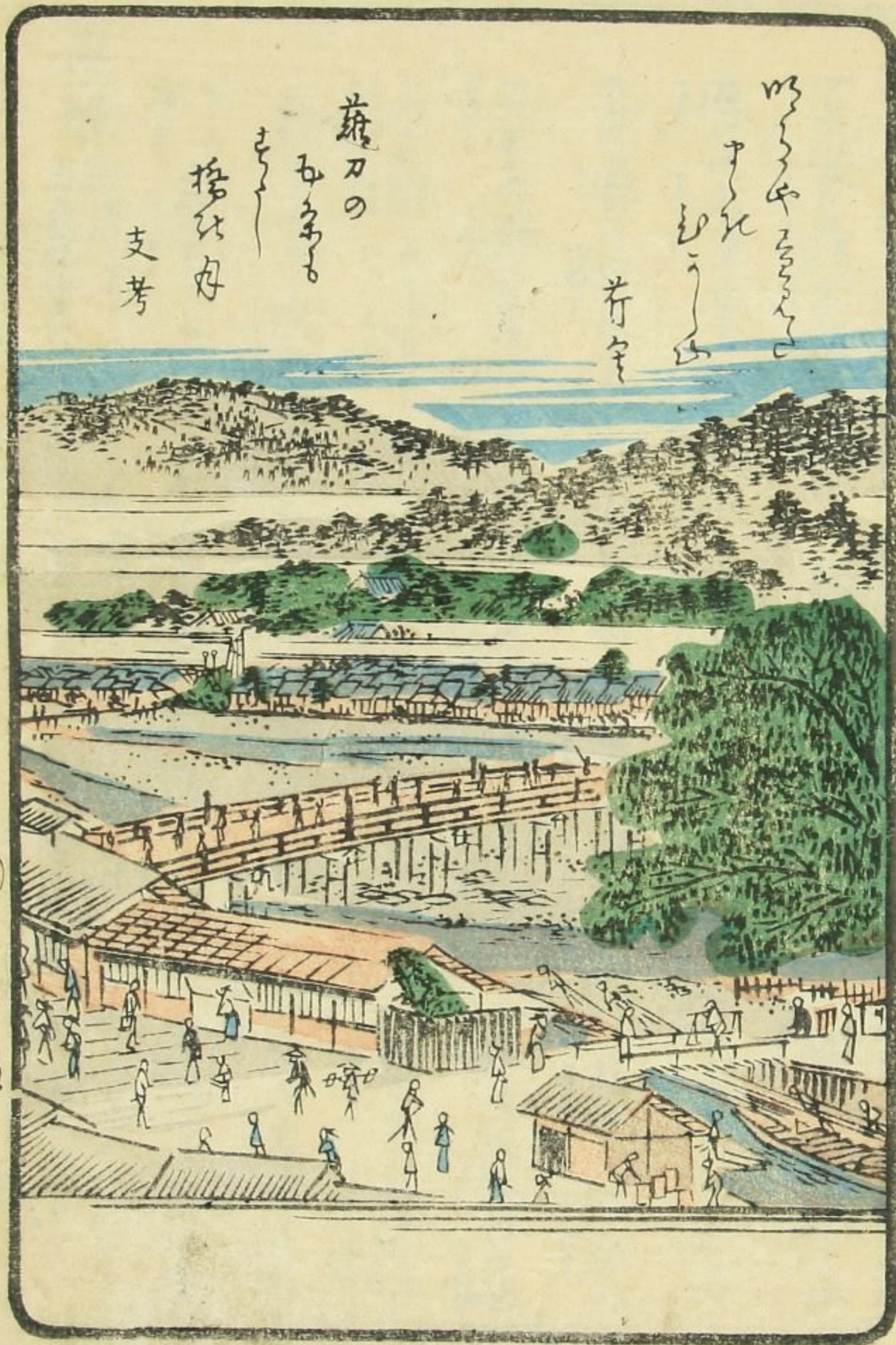


東  
大久保  
地蔵  
六

三條橋  
梅家  
左の舟  
右の舟



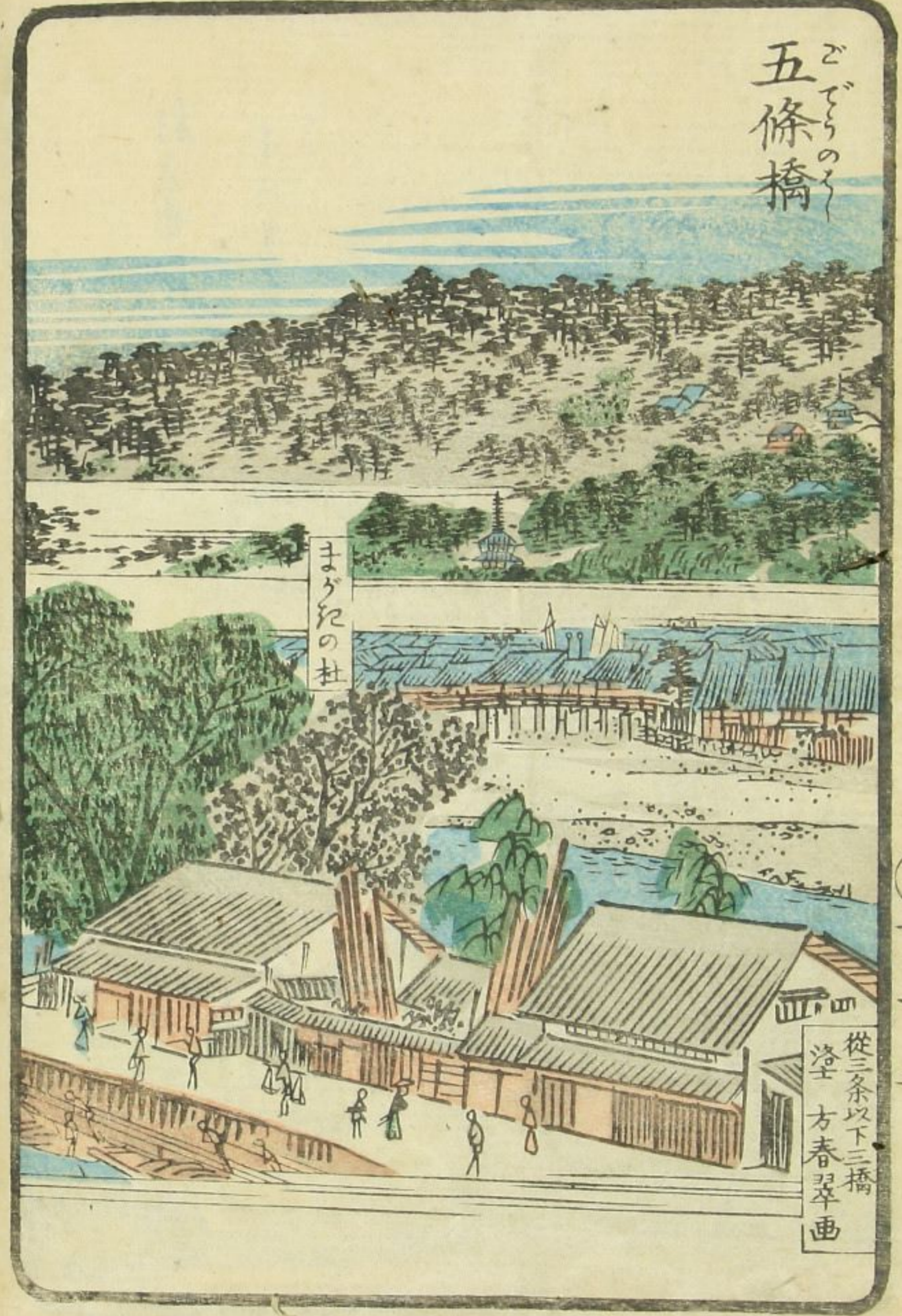




支考  
 橋の舟  
 まき  
 ひまも

み  
 り  
 中  
 り  
 舟  
 舟  
 舟

五條橋  
 ござら  
 の



ま  
 ぐ  
 の  
 社

從三條以下三橋  
 方春翠画

京師

詩經云劉備南岡乃觀于京京師之野云是也前箋云都邑也

營立之處也 蔡邕獨斷云天子都之於所與京師之於所也

みたりと地下の多きもの水は過るる形は地上の衆きもの

人は過るる形は京の大なり師の衆なり大衆の居る所を以て

天子の都は雨雅る天子高き居て遠く城視の意

あり師の衆なり人民衆くあふ聚るの謂云抑平安城の

都の人皇五十四代桓武天皇興基りより今の御代に至る

一千有載遷都する中華の事其例なり是は天津日嗣

の位よりひてより御堂灌川の流をたぐせは位の高砂の松葉  
の散るせびく億兆の歳と彌らんぞ知るる又都とい華  
の訓も花洛も稱せり

昔より都ありたるの里はたゞ吾國の名中なり後京極

三條橋

加茂川は架け東國より平安城に至る喉口なり其橋の形人常の形也此

洛陽三條之橋至後代化度往還人磐石之礎入地五尋切石

柱六十三本蓋於日域石柱盪觴乎天正十八年庚寅

正月豊臣初之御代奉増田右衛門尉長盛造之

いまりおとよ  
稻荷御旅所



街乃々々

まのつゞ

ちんちん

鍵のまも

まもる

つららの

木のまもる

千歳舎

鶴成



更衣 三條 只丸

五條橋 三條橋の下に有初松原通三架せう則五條通三秀吉公の時此所ニ

四目一移の銘あり 雑陽五条石橋正保二年乙酉十一月吉日

奉行 小川藤左衛門尉正長 芦浦観音寺舜興

此橋上の半より東に向ふ洛東の勝地木の間に小願れ 平安の佳景あらね止る

蒲團着く痛くともぬいじり山 嵐雪

京師より浪華へ船を下るに大和大路の事と伏見に出る

是と本街道とも老人足弱の徒に高瀬川の下舟を坐せ伏見より

も有又西の辺より伏見より東洞院の車道九條より東竹田と経

伏見の黒門に至る或は油小路より竹田と経黒門に出る是と竹田

街道と号し 西竹田東竹田の西 又陸路に東寺より鳥羽街を経て

淀に至るも有或は伏見より淀に出るも有り又東寺の四塚より

桂川と越へ山越へ至り高槻より鳥飼江口柴嶋と長柄み出で大坂

に至る 俗に西街道或は山越越へ此道修長岡の天神向の明神山崎の八幡

道祖神社 江口の君堂此島の上の堤に有る其の形は舟の形に似たり往來する 油小路通七条下る末例にあり祭神猿田彦命に世人首途神と称し 社内天満宮あり碑と建鳥石鳥辰の銘篆字に岡白駒の華あり



とほごのまねまち  
竹田分道  
あらくどもかん  
安樂壽院



あまの山



道祖神の南二丁より西の神興五座毎年三月中旬の午の日此

稲荷御旅所 神幸のりて四月初の卯の日還幸までは後新(あき)のり

竹田 同南より伏見往來の順路なり此より西は過り真隣(まごり)の通り

安樂壽院 竹田村より北の方の本堂とあり此より西は過り真隣(まごり)の通り

陀佛 本堂の東より釈迦(しやくか)の像あり此堂の西は過り真隣(まごり)の通り

三昧土佛 本堂の東より釈迦(しやくか)の像あり此堂の西は過り真隣(まごり)の通り

新御塔 南の方の本堂とあり此より西は過り真隣(まごり)の通り

冠石 本御塔新御塔の間より此より西は過り真隣(まごり)の通り

二重塔 阿弥陀佛と安置し春日の作此塔は豊臣秀頼公の御建立あり

右の油小路より下る道條より則安樂壽院の東門前より東

洞院の街道より出く伏見黒門に至る

柳茶店 東洞院通九条村より車道の傍に藤茶店あり

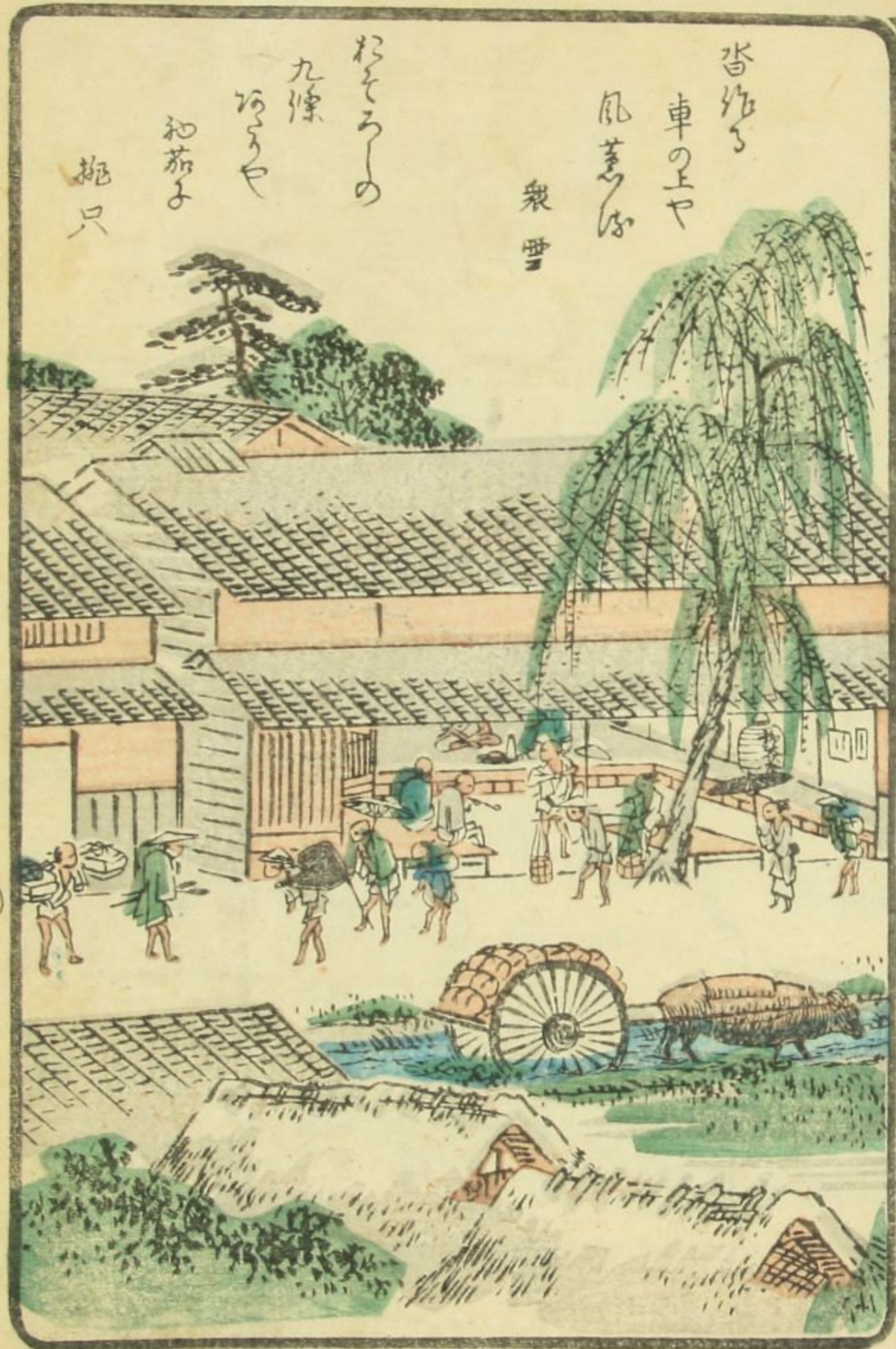
右の東洞院通の街道と伏見黒門口に至る道條より

高瀬川 加茂川の西より東竹田の北より合し又分れて伏見に出る加茂

高瀬の川條の中頃内裏御修理の材石と運がらん角倉

了以の作より嵐山の碑より見へり高瀬船は毎朝伏見より荷物と

了以の作より嵐山の碑より見へり高瀬船は毎朝伏見より荷物と



沓作  
 車の上ヤ  
 風流  
 衆雪  
 ねそろの  
 九條  
 初茄子  
 掘只



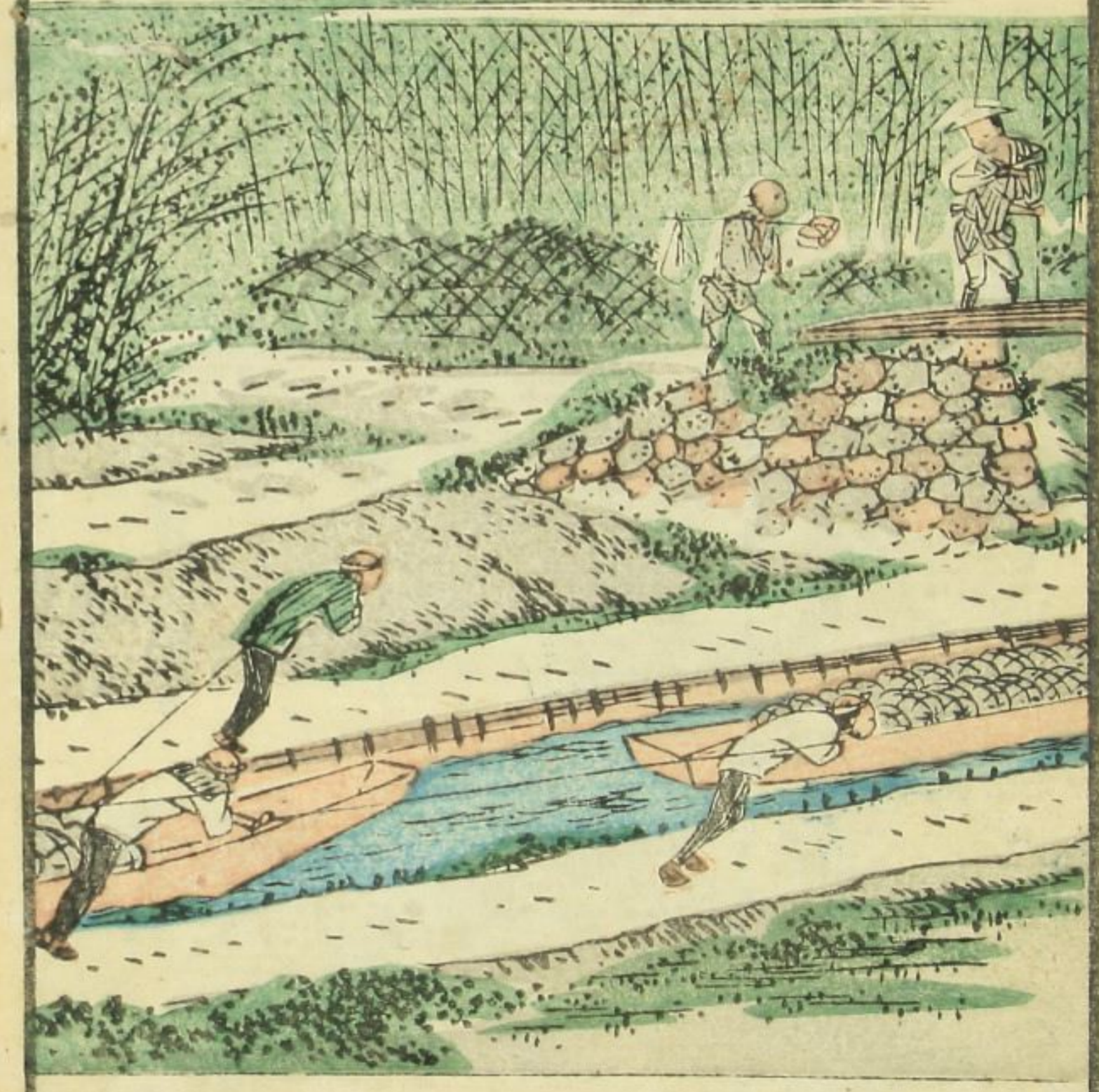
柳茶屋  
 車道  
 牛の草中の  
 如行  
 如水と清さ  
 御  
 文賢

高瀬川

休朝老蹇就平夷  
安坐不嫌篙子遲  
官闈有便分水路  
糞船何必插宮旗  
已過瀧島市聲遠  
漸及竹田林影垂  
蕭寺今宵欲投宿  
桃山恰是發花時

島棕隱

一丁一  
測屋  
去水  
飄々



あつちや

狗とつと

い所

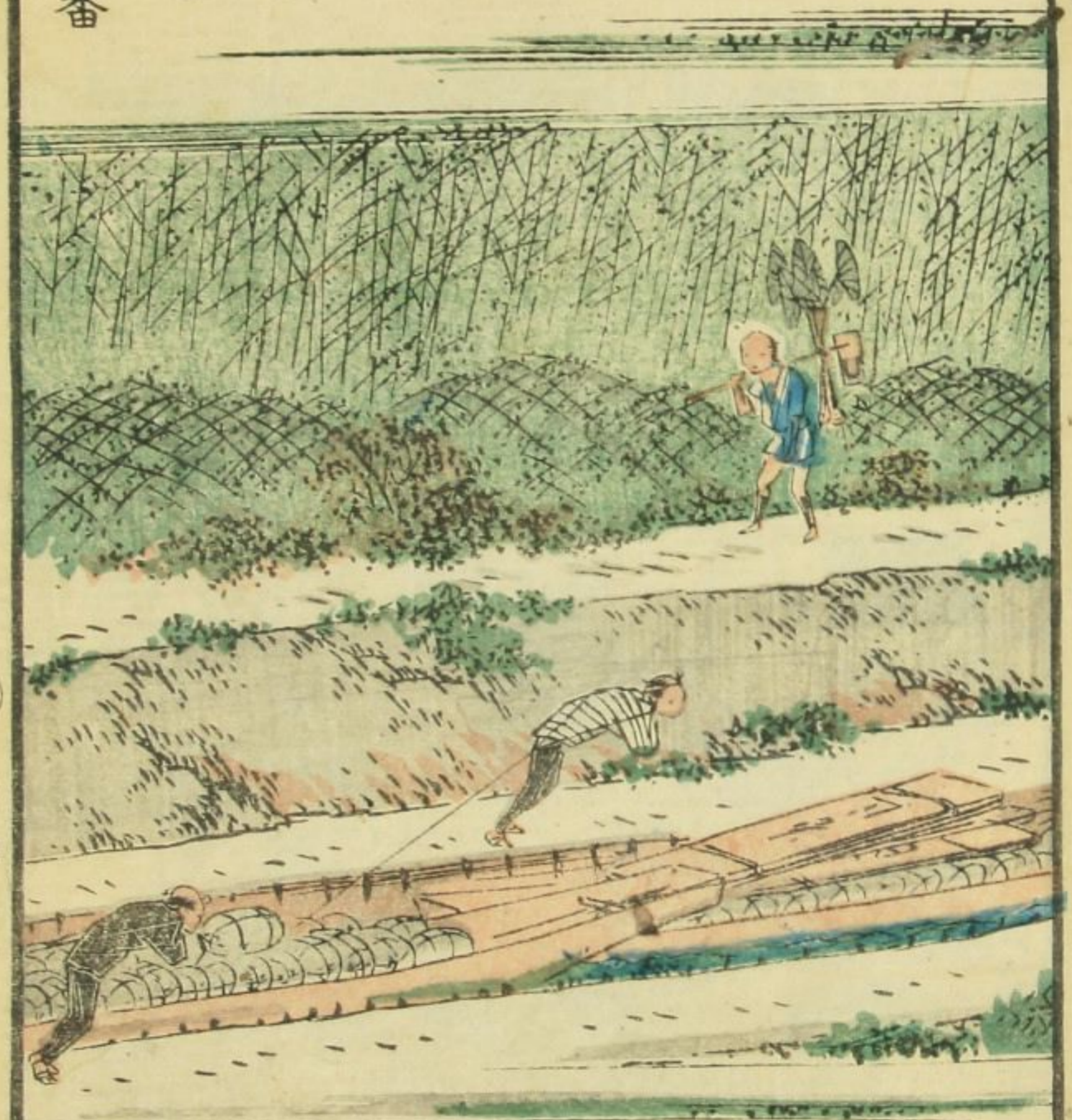
一刺

虫のまれ

中とよちや

さしぬゆ

舎蕃



東竹田  
藤茶屋

龍宮  
きこう子事  
はこふ細  
豆腐  
茶屋の廊  
力丸  
その美子のねん  
機  
ふの茶  
伴の園



夕風  
源  
孫の冠  
柳亭  
苗とれと  
水鏡の  
味や  
竹田乃  
塘里



下ツリハ

積つみて京きやう呼よべ曳ひ上あり又また荷にと積つて下くだゆり合あひつりあらはしる老らう人にん足あしをもの後ごにのりて  
足あしをもの後ごにのりて東とう竹ちく田でんの街まち道みちはこのり此このり船ふね川がははこのり添そひを或あるいは離はなれて下くだるり  
伏見ふし三さんつり

伏見船場ふし船場 京橋阿波橋きやうばしあはばしより大坂着岸おさかちかぎのり淀川よどがはの通船とうふね昼夜ひるよるとり着つき

り出でるりあらはしるり其その賑にぎひを言いづくものりは船宿ふねしゆくの男女おんなこゝろの軒のき出でるり  
か下くだりはあらはしるり今いま出舟いでふねがこのりまはらはしると声こゑ喧あやしる客きやくと招まくり裏うら  
か上うへの客支度きやくしどと調しらへる船頭ふねがしらは下くだりは客きやくと迎むかへる荷物にものと運はり上るり  
も下くだりは御機嫌ごきげん克よく己おのれ船頭ふねがしら衆仕切しゆくしきりと随分ずいぶん緩ゆると取とりしれと付つき  
さんでらん定例じやうれいの口上くちがしるり是こゝも詞ことばの色いろさらるり

○三柵さんさく 伏見肥後橋ふしえ肥後橋の向むかひに上うへ三柵さんさく下くだ三柵さんさくの両村りやうむらより上うへ三柵さんさくは善福寺ぜんぷくじと号なづけらるり  
禪判ぜんはんのり行ゆき善菩薩ぜんぼさつの岡基おかのもととして本もと多たくはしる佛ぶつ十二じふに神将かみしやうともは行基ゆきの作しとのり  
天武天皇社てんむてんわうの社 下三柵くださんさく村むらより生土神なまつかみとり例れい祭まつり九月くわがつ十六じふろく日の夜よとして大松明おほまつあきとり  
神輿かみこの渡舟わたふねよりは三柵さんさくのりならはしるり

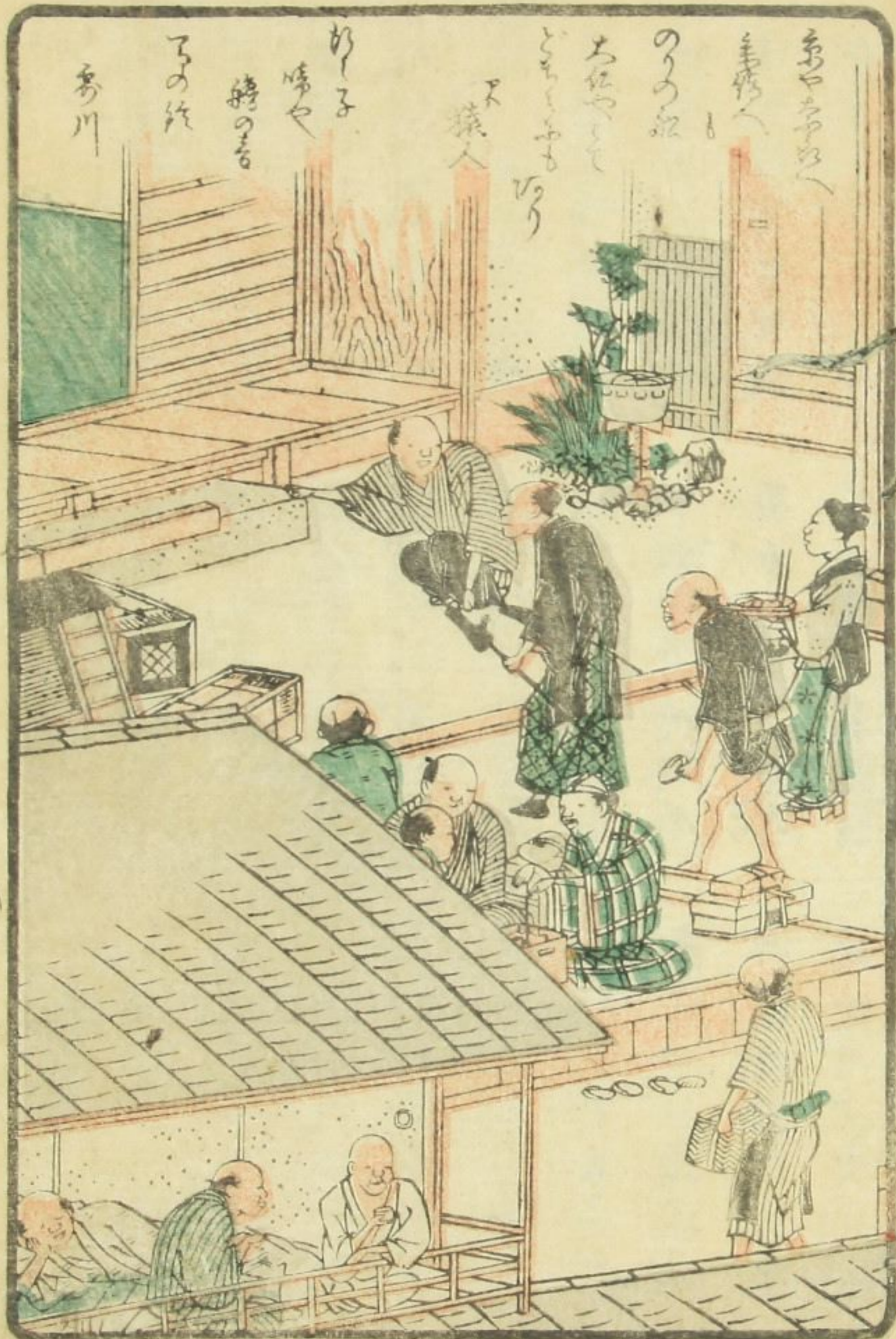
伏見口ふしえぐち 下三柵くださんさくの下くだより石銭番所いしせんばんじよ黒門くろかどより伏見ふしえ  
京橋きやうばしより此所こゝまで水みづ上うへ九く十じゆ三さん丁ぢやう半はん

淀堤よどづみ 伏見口ふしえぐちの下くだより伏見口ふしえぐちより淀領よどりやうの境さかいまで水みづ上うへ九く十じゆ二に丁ぢやう半はん余あま  
三柵さんさくより淀小橋よどこはしまで行程ゆけい一里いちりの間松林のまのまつばやしとして景色けしきとり

千両松せんりやうまつ 堤づみの間の松まつとり或ある云いふは數株かずかぶの内うちとして其形そのかたちともは名木なまきより是こゝと賞あやしるともは名なづけらる  
勝かちぬらるりと賞あやしるともは名木なまきより是こゝと賞あやしるともは名なづけらる  
價あらわいる有あるりはこのり此堤こゝのづみは秀ひで士し公こうの所ところ時とき祭まつりをせらるりとりし  
長なが七しち十じゆ六ろく間ま南北なんぼくに架かけらるり兩岸りやうがん共ともに茶店ちやてん林店りんてん貨食家かじけままく繁昌はんぢやうとり領界りやうがいとり

淀小橋よどこはし 水みづ上うへ九く十じゆ三さん丁ぢやう橋下はししたより夜燈籠よちやとうろうと照あらわいる通船とうふねの便べんとり

○納所うけとこ 右小橋みぎこはしの北きた詰つめより唐人雁木てんじんがし 同所どうじよより朝鮮人未朝てんじんみぢやうの時大坂おしより河舟かふねとり上うへりは陸地りくぢとりなるり  
此邊書こゝのえの番所ばんじよあり



秀川

了の終

終の香

啼や

好子

猿人

とくも

大紅

のの

毛

多



伏見  
船宿

小状刺

茶竈煙暄吹碧漪船  
家正是午殮時客來  
已滿蓬間座猶募私  
錢解纜遲

曲々挑花蘸絳雲上  
舟人各帶微醺過橋  
出巷繞三里先占江  
南春幾分

島掠隱

本堂再建奉

三十石夜船行

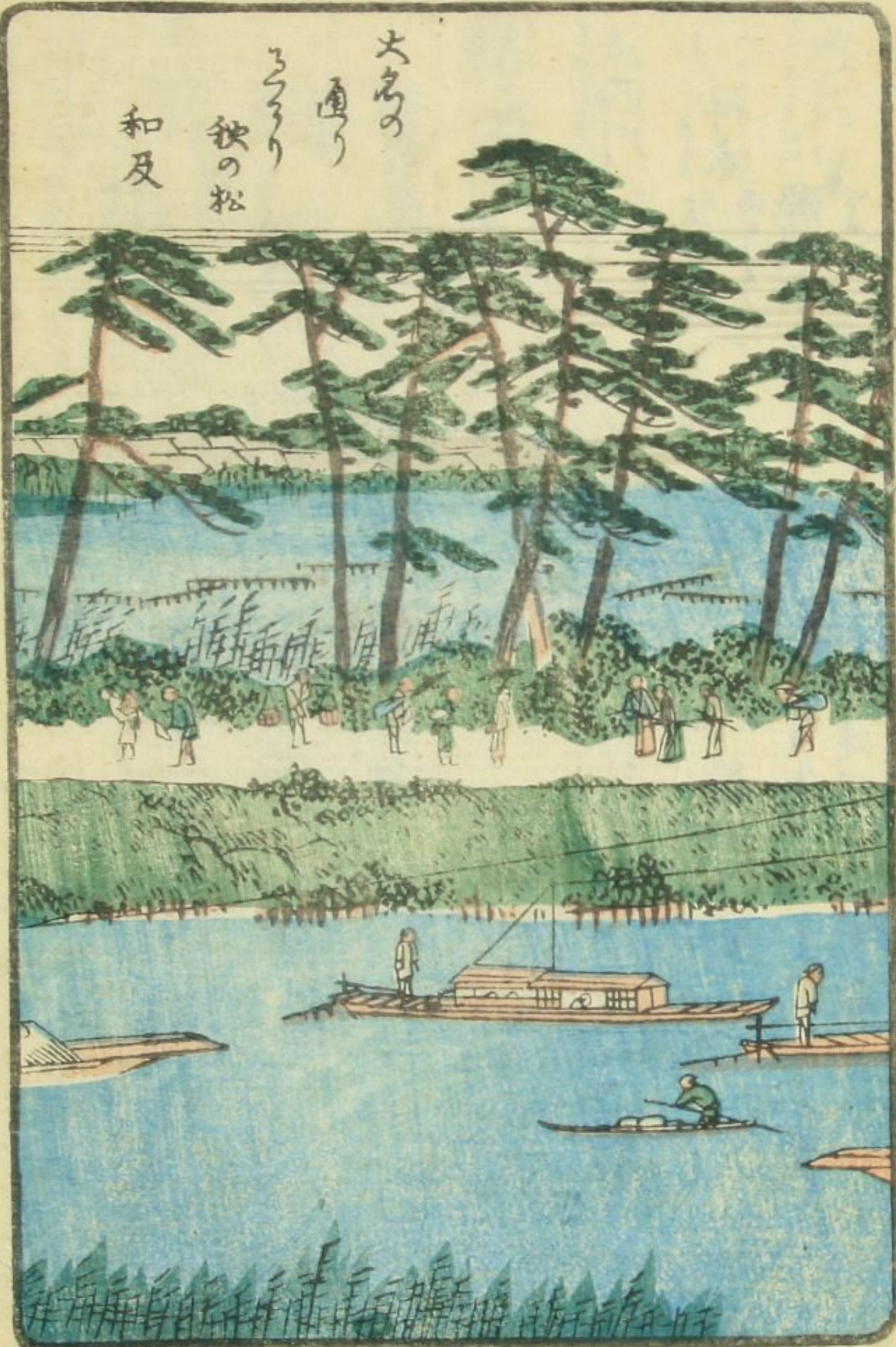
王震起

船宿相連京橋傍  
 目印行燈每軒行  
 有登有下三十石  
 或去或來旅客忙  
 出殼煎茶水泥臭  
 八杯豆腐當齒剛  
 按摩上爛呼步賣  
 鼻紙揚技於婆商  
 支度已調暇乞濟  
 持荷若者送入艙  
 筓低恰如掾下住  
 立欲着替數縮元  
 借切胴間雖稍廣  
 不異饅頭詰重箱  
 虱虫數千這移瘡  
 蒲團三帖糊殊強  
 船頭飯自中書島  
 取撓出時夜已央  
 高聲叱云勿出午  
 早早可消挑灯光  
 乘合口口諸國話  
 或歌或笑聲皆張  
 巫女山伏卜筮者  
 四國道者西國娘  
 何處素干交狐臭  
 紛紛傳來鼻難當  
 銘銘用心巾着切

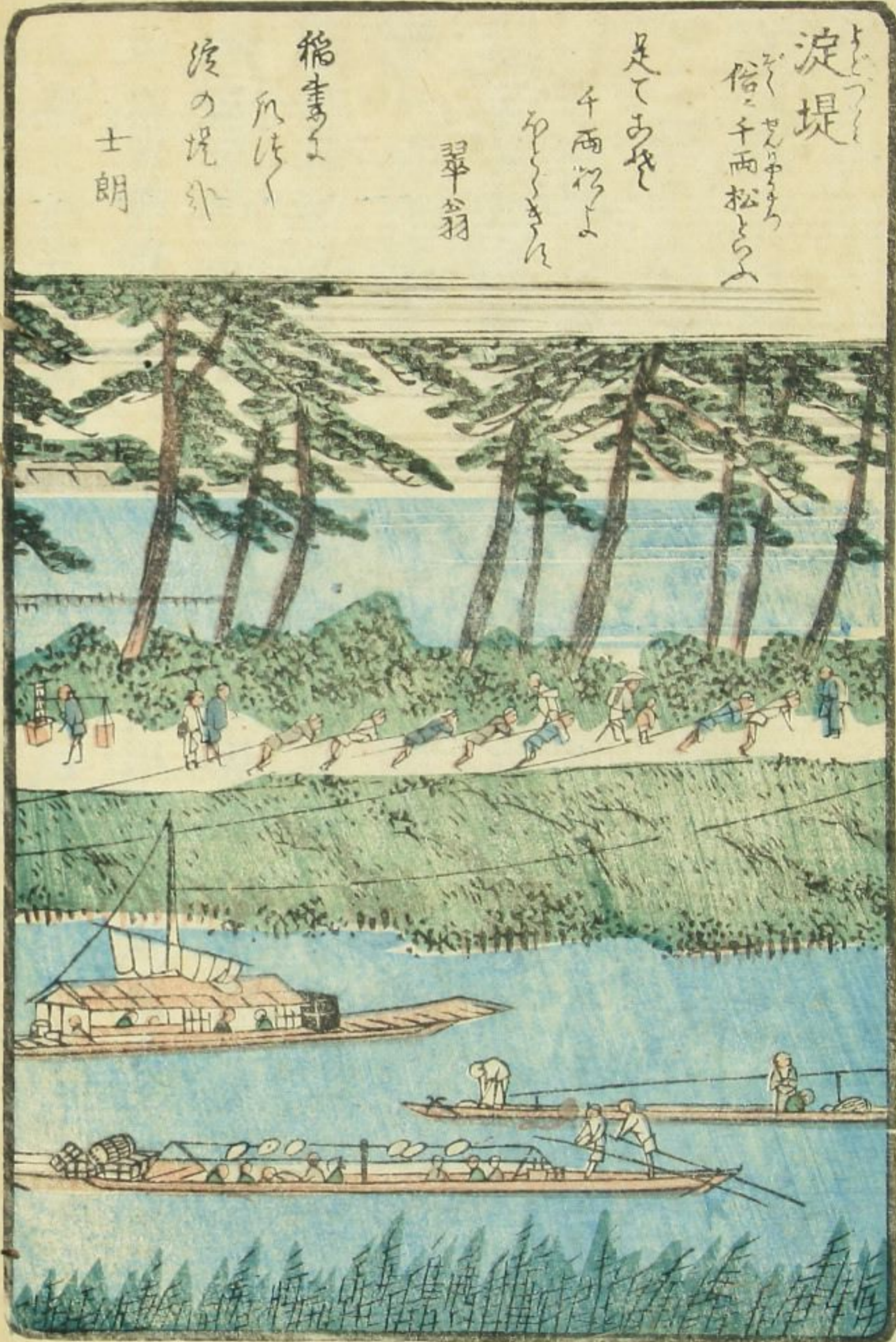
合膝刺跡互怕狼  
 一樣着眠軒疑蟻  
 誰人寐言全如狂  
 風寒波響世間靜  
 犬吠遙過淀川防  
 誠哉色本思案外  
 風與見得隣寐嬌  
 月影賺窺胸幾躁  
 年頃過盛好器量  
 一向難留息子勢  
 無分別起竊褰裳  
 枕上急呼如雷落  
 愕兮引手舉首望  
 起兮起兮寐惚輩  
 沾餅飲酒喰牛房  
 追々醒目何居負  
 橫平買取助空腹  
 倘若無人惡口吐  
 法外雜言不足惶  
 惜夫已到大事處  
 田舍百姓無下妨  
 其跡難往寐不就  
 爲野暮風思故鄉  
 堪喜霧暗無人見  
 一夜懇切互不忘  
 上陸如散蜘蛛子  
 右往左往去四方  
 女中久因忍小便  
 八軒屋頭雪隱長



大木の  
通り  
ろろり  
秋の松  
和及



淀堤  
倍々千両松  
足てあや  
千両松よ  
翠翁  
稲妻よ  
尻はく  
波の尻外  
士朗



十五

鳥羽川 加茂川の下流より横大路の辺より桂河の末に合す  
○水垂 鳥羽川の傍にあり

淀姫社 水垂村にあり 祭神三座中央淀姫神 東間千観内供 西間天神

當社入千観法師の 勸請ありと云 若宮 本社の 多寶塔 鳥居の東にあり 火大神祠

地藏堂 本社の 例祭九月廿三日神輿 基あり

宮之渡口 右淀姫の社の鳥居前より鳥羽川の落合と 大下津 水垂村に

法西川 大下津村の 此所より大坂まで陸路行程九里の場所あり

○神木 法西川の 神木村の 圓明寺川 同村にあり

狐渡口 圓明寺の瀨より八幡の瀨まであり 渡の長サ百十間と

山崎 寺村の下にあり 茶店旅舎多く有て賑あり

大山崎天王社 天王山より 祭神素盞鳥等の御子八王子と鎮座し山崎郷中の

古戦場 天正十年羽柴秀吉明智光秀と戦ふ

観音寺 天王山の東半段にあり 聖徳太子の 祖師堂 本堂の左有

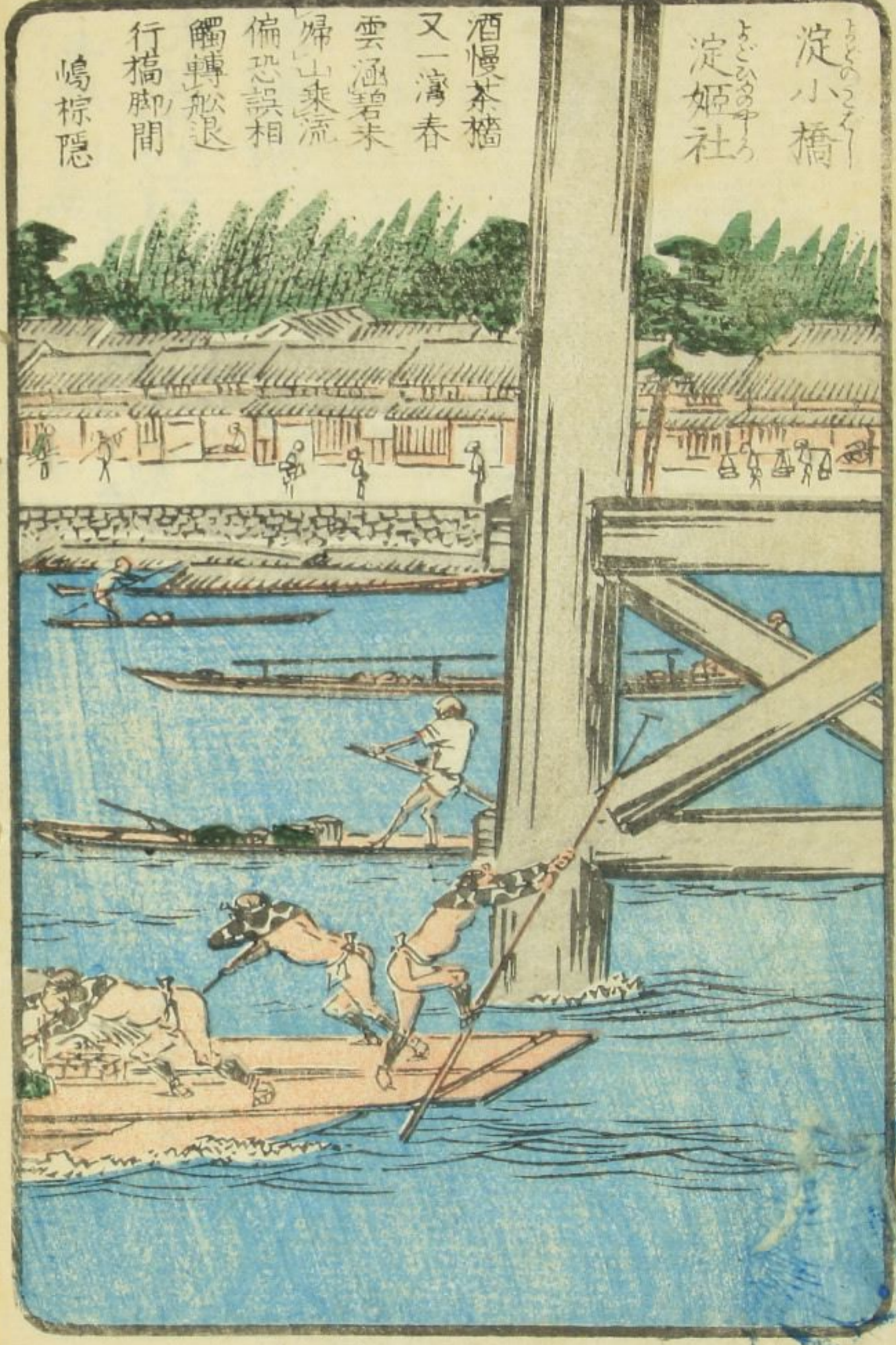
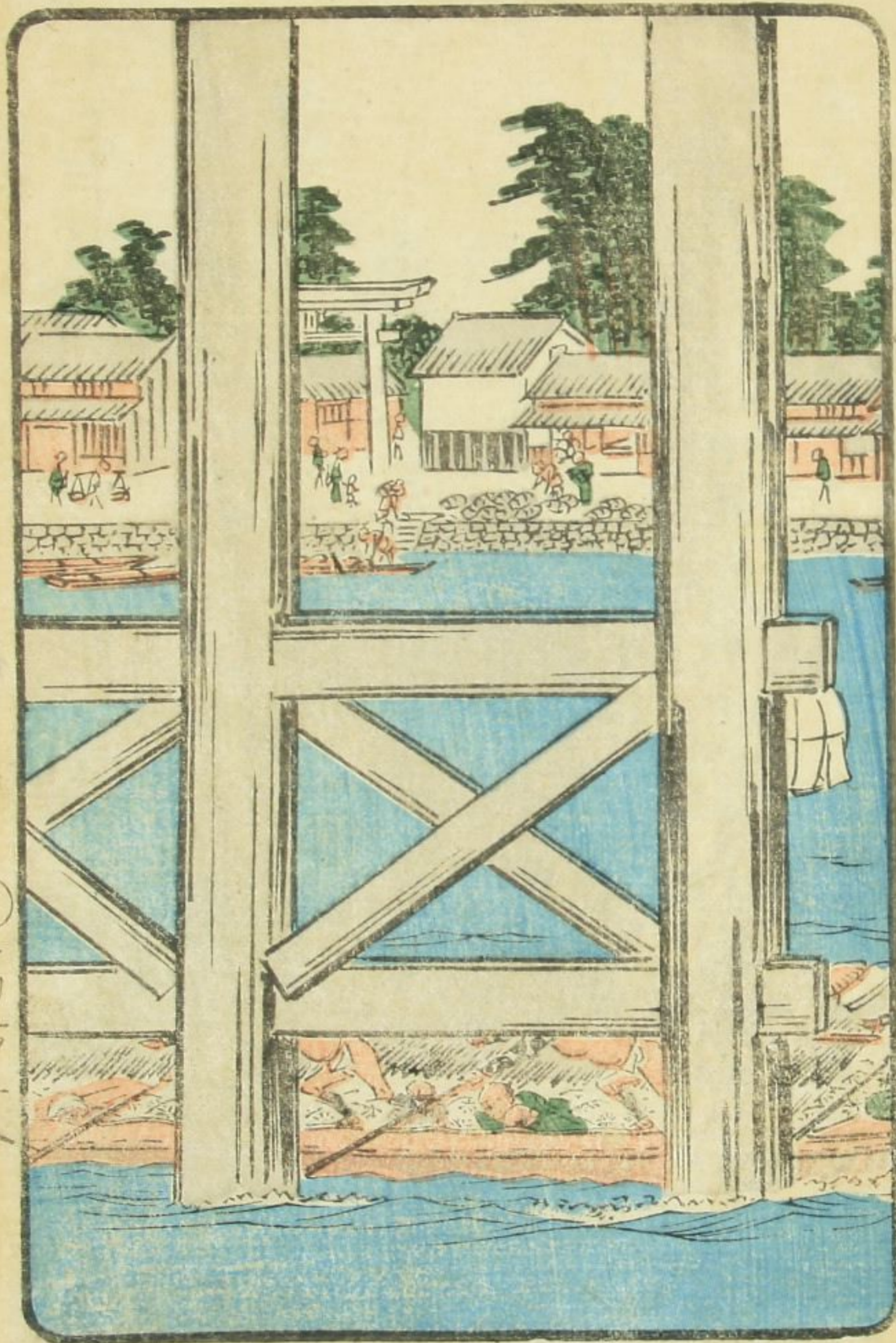
木食以空僧正中興して當時の如く再建あり

聖天堂 本堂の前右の傍にあり 天鏡

寶寺 観音の南にあり 補陀洛山室積寺 本尊十一面観世音 立像あり

行基大士の 三層塔 大日如來と 聖武帝石塔婆女 庭上にあり

両作あり 安置あり



淀小橋  
 淀姫社

酒慢茶檣  
 又一灣春  
 雲涵碧未  
 歸山爽流  
 偏恐誤相  
 觸轉船退  
 行橋脚間  
 鳴棕隱



鎮守社 天照太神 八幡 春日 尚魔堂 あまの合にあり 尚魔王及び十五の孫のい  
山王大宮 八王子とあり 関戸院旧蹟 山崎 関戸町の軒 ありり 古人の和歌あり

此大山崎の驛路ハ京師九條東寺の西四塚より西南にづゝ掛川久世  
橋と涉り向町と登り山崎に向ひ関戸院の旧跡にあり是関西三十  
三列の官道として文禄年中豊臣秀吉公朝鮮征伐の時關所  
故に唐街道とあり古ハ羅城門 今の四ツ あり南へ官道ありて久我運手  
渡の大渡と越り山崎の橋と渡り関戸院より南へ是より南へ芥川宿  
河原 今の 瀬川昆陽より西宮兵庫須磨明石に至るあり

橋本渡口 橋本より山崎へ渡川と

水無瀬川 山崎の下 廣瀬村よりひらり関戸院と山城 橋津の国境とせしが  
今此川とあり 兩國の界とせ

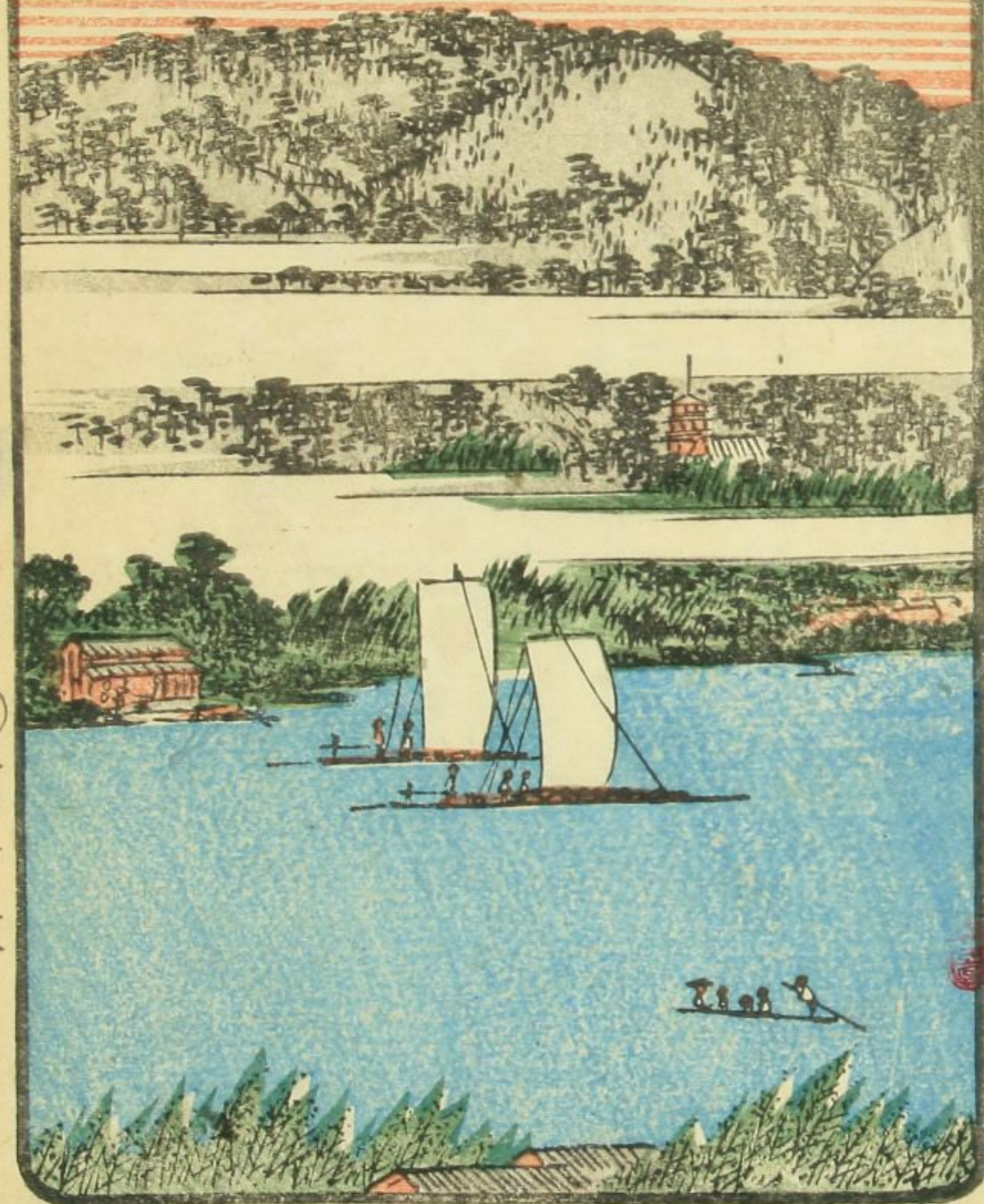
水無瀬渡口 山列 橋本の宿より 橋列 橋上 那 廣瀬へ渡川とせしが  
舟あり 俗に下の渡しといふ 渡の長九十間とあり

素 君とこれ 交野の里よりのみ 幾夜もあせの流るあつらん 憲 盛

○廣瀬 右一村に 渡小橋より 山前まで 水上凡五十町許は地より 西橋井あり  
特賣小侍 従古部 能因法師の古跡あり

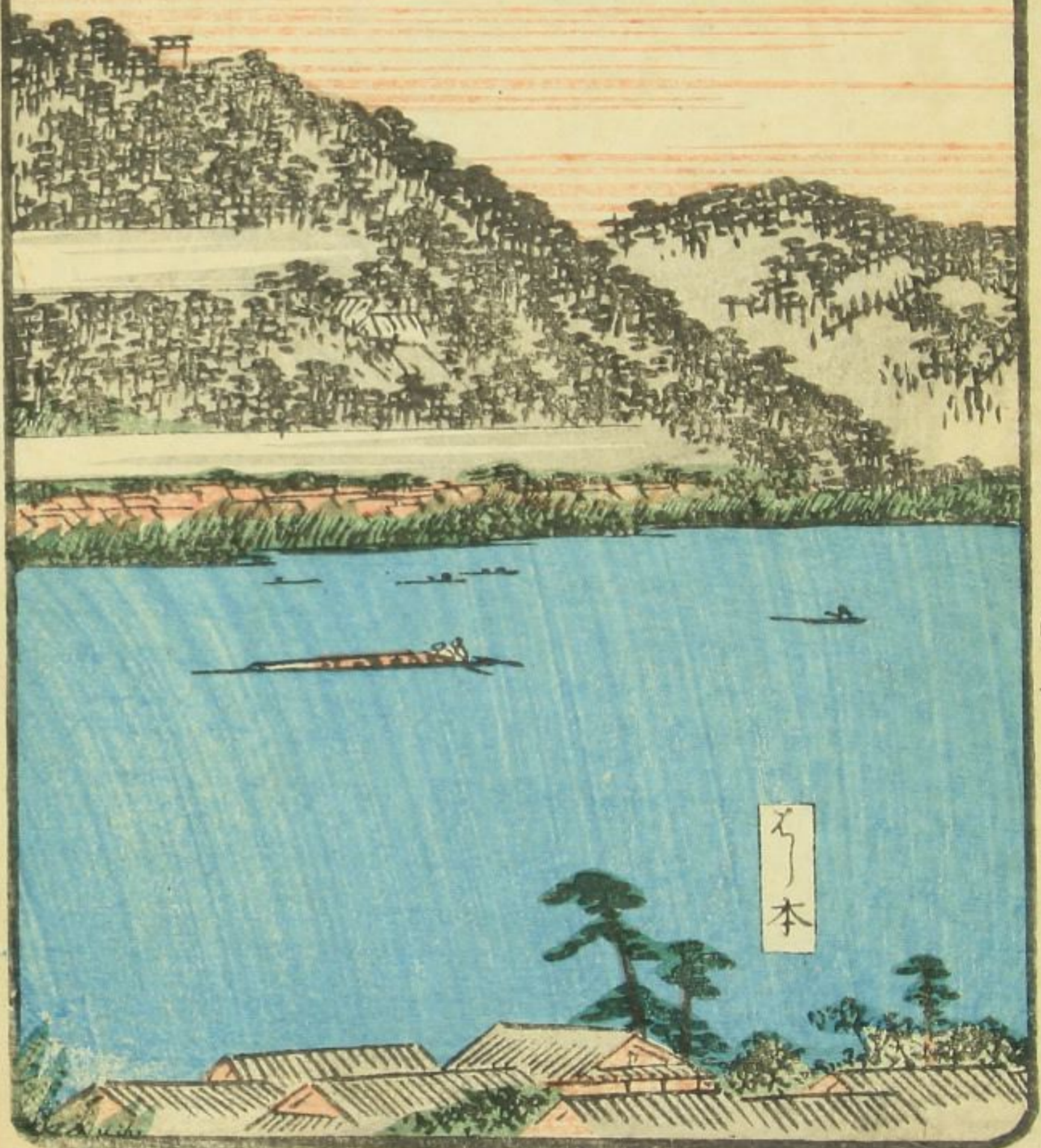
水無瀬殿 廣瀬村より 羽林家 友系氏 旧此所ハ 文徳帝 第一の皇子 惟喬親王  
故宮の遺蹟に 文徳帝 第四の皇子 惟仁親王 忠仁公 外祖とあり  
あり 立東宮とあり 清和天皇より ありあり 惟喬親王 ありあり  
洛外北山あり 山崎 水無瀬宮等 あり

山吹の巻も  
 咲や  
 山寺  
 沂風  
 山吹の巻も  
 咲や  
 山寺  
 沂風  
 醒花



大山崎  
 天王山  
 観音寺  
 寶寺

窈窕漢城臨水  
 濟豐公曾此蓄  
 瑤顏閨中誇指  
 天王色是我當  
 年破賊山  
 鎮雷韓中秋



下  
 一  
 九

後鳥羽院御廟 水無瀬殿より 後鳥羽院遷幸のありし

阿弥陀院 廣瀬村より正法山と号し浄土宗本号阿弥陀佛行基作 観音堂より水無瀬家の菩提樹あり

廣瀬神祠 同村より西八王子と称し近隣四ヶ村の生土神あり 社頭より鳥祠あり

水無瀬里 廣瀬村の旧号より古くより畧之水無瀬 〇高濱 廣瀬村の下より

高濱渡口 松島郡より渡村より河川交野郡楠葉村へ渡りし 舟を渡すに長し百七十間あり

〇上牧 高濱村の下より舟の御牧のあり 旧跡より 則の上の御牧に 中の御牧の柱本より 延喜式に 出度所より 水上九十町半余

上牧神祠 上牧村より 古村おむび 杉原井原 両村の 生土神あり

本澄寺 右同村より 日蓮宗 洛陽本満寺に属し 俗に上牧の高祖と称し 是より北街道筋 梶原村に 一乗寺として 同宗の大地あり

當寺本堂に安置する所の高祖四十二歳御自作の木像として世に

厄除の高祖と稱し宗門の男女帰依して例歳三月十二日京師より

群衆駈上鳥羽法花渡より乗船し船中より題目を唱へ太鼓

と打ちし淀の大河も狭くと漕下せり又九月十二日の浪花より

も同じ前夜より乗合の船に異體同心の男女押合し各祖像の

舟扉と争ひ拜は平日の容易閑く事と許さざぬ扱又當村の悉く

經宗として右春秋兩度の法會より農業と休む寺へ打ちし

諸人と餐と事宛も生土神の祭礼の如し

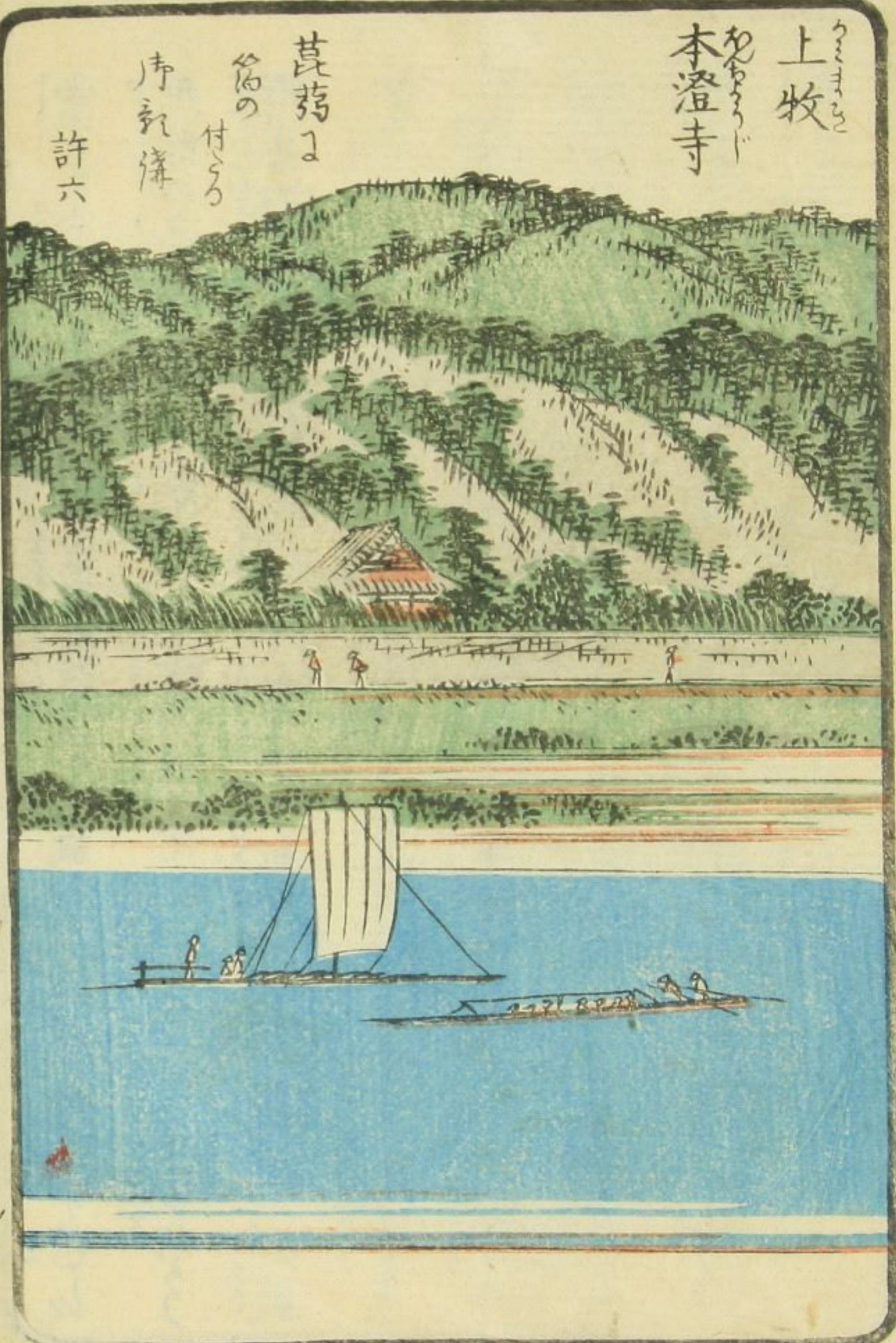


沾圃

はな

拜ね

抽も柿も



上牧  
本澄寺

葛菟

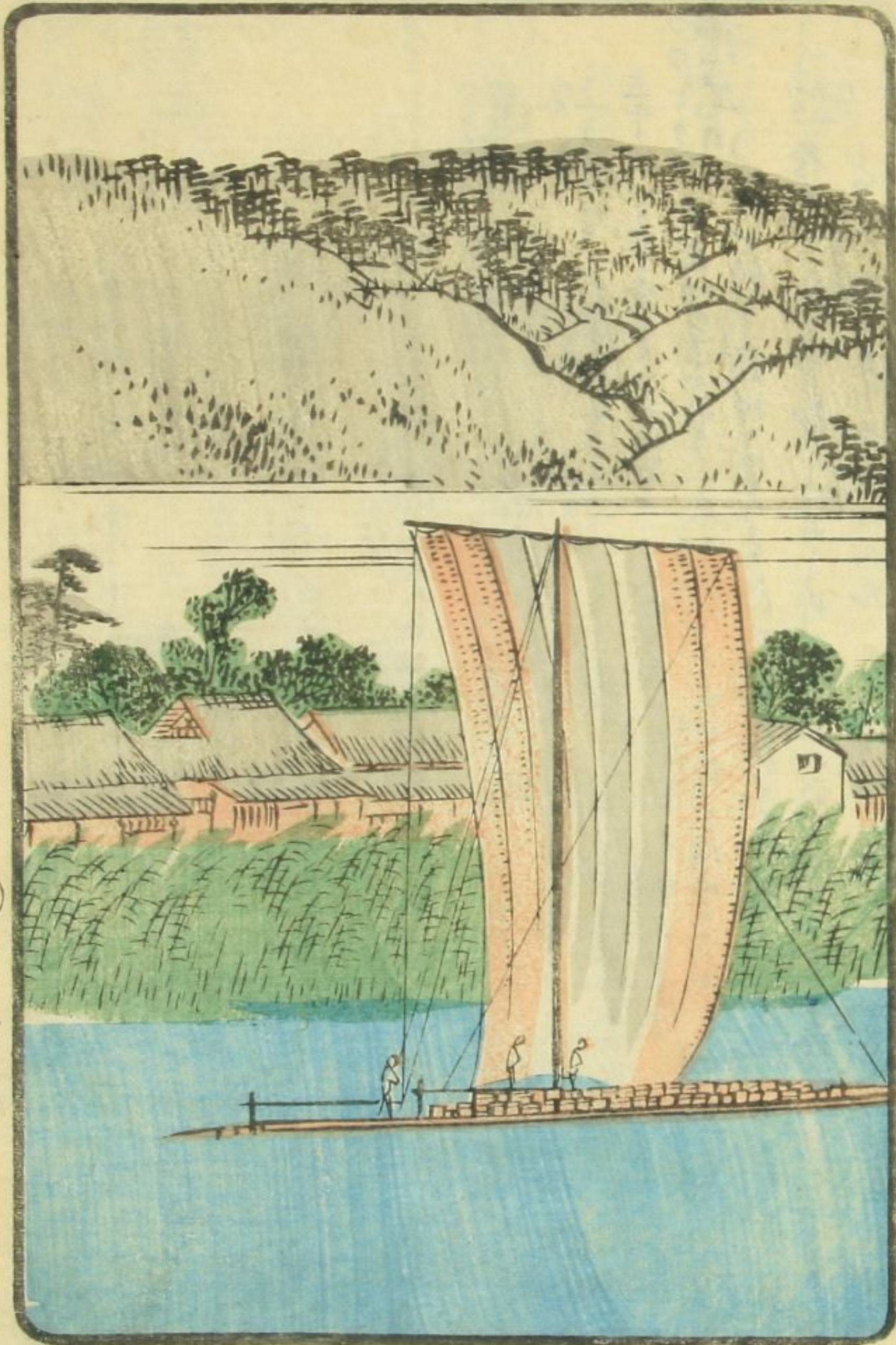
俗の

付ら

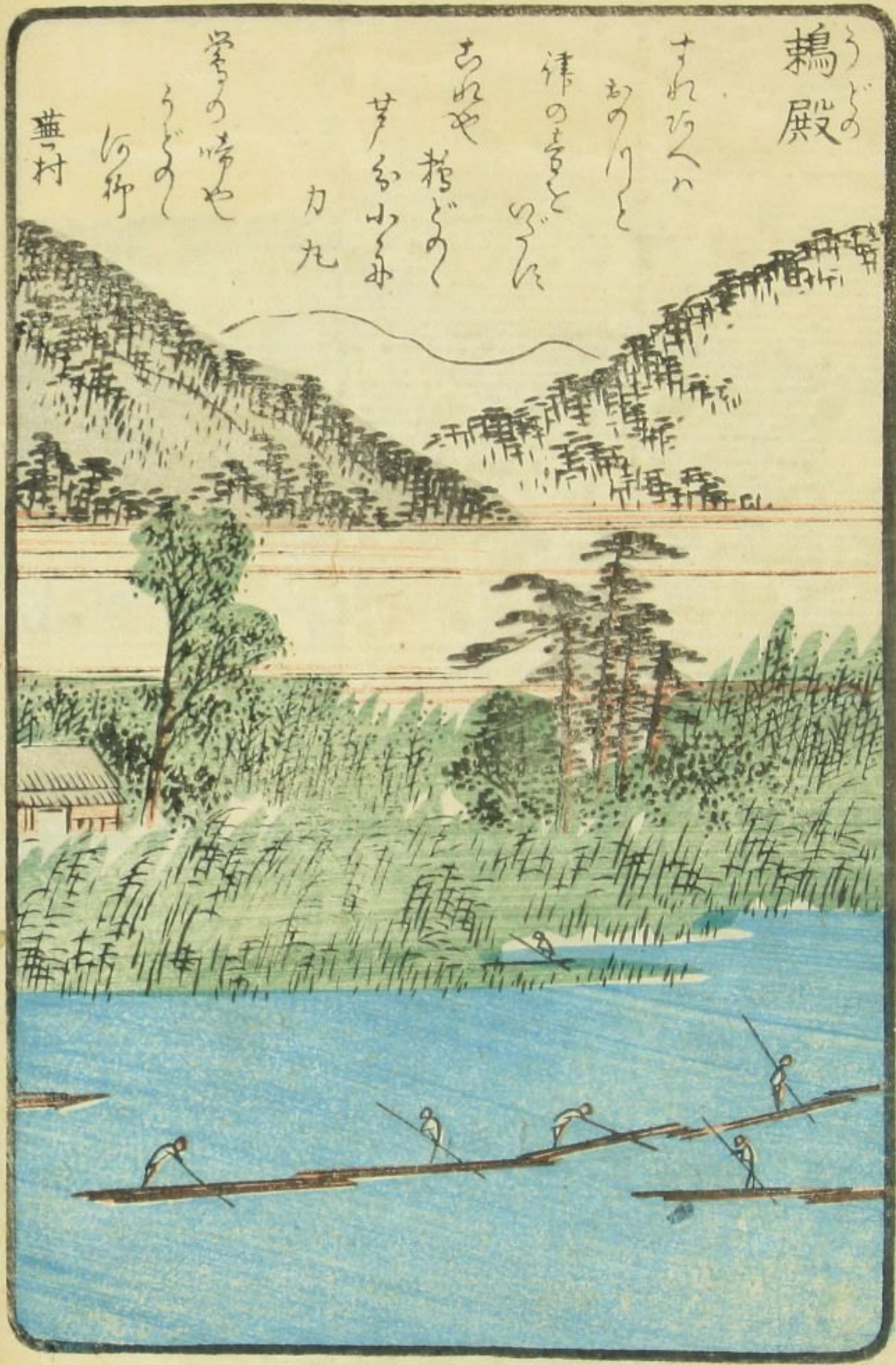
寺新様

許六





（一）  
ア  
カ



鶯殿

すねりん

あひり

律のまこと

あぬや

指どろ

芦ふし

カ丸

空のつや

うどろ

河柳

蕪村

（二）  
カ  
タ  
カ

○ 鴨殿

名産蘆

上牧村の下ニあり川辺ニ葎島あり鴨殿の鴨と云ふ  
土佐日記ニ云 今昔草子に鴨殿の鴨と云ふはゆふ云云  
右鴨殿村の境ニ生じたる蘆より葎葉の義葉一可なりと云  
いりしと云ふ世ノ名もしく真ニなすまらざる

葎葉の舌われぬと啼千鳥

青雨

○ 道西

鴨殿村の 前島 道西溪の下ニあり船取川辺ニ茶店あり  
酒飯も自由あり勝手あり此と云ふ  
上ノ客は又宗客あり上下あり同日ニ上牧より此所の茶場まで水上凡  
三十六丁半余ありは取らる大坂まで陸路行程六里あり

○ 檜尾川

前島村の下ニあり一名七瀬川と云水溜大は山より物々成合堂流天川  
ほとほと冠村の川より渡川ニ合流する冠まで水上凡九一丁  
冠 檜尾川の辺にありはあり柳の梢冠の形に似たる名木あり名つきて冠柳  
と云ふ今昔草子に字付保母語ニ見たり旧の冠柳村と云ふ

○ 深澤

冠村の 深澤村の下ニあり村中ニ塚あり大塚といふ  
下ニあり 大塚 奥ハ王塚と云ふ其姓名詳さず

○ 大塚渡口

後上郡大塚より河内郡田部牧方駅三夫ニ渡川と云ふ  
此地の向ふ牧方の驛されば名物の貨食船漕とせし上下の  
船客は酒飯と高き俗に喰らはん船といふ

○ 高

高ひよつとひもねく言やうで実らんらんを喰はん船一雛  
高ひよつとひもねく言やうで実らんらんを喰はん船一雛

○ 番田

大塚村の下ニあり冠村より南村まで  
水上九十三丁余ト云  
前島より十八丁西ニあり唐崎より十八丁北ニあり  
永井彦の居城より城下の民家建つるなり頗る壯麗なり

○ 高槻

永井彦の居城より城下の民家建つるなり頗る壯麗なり



赤襟姫成

かゝる

かろ

案

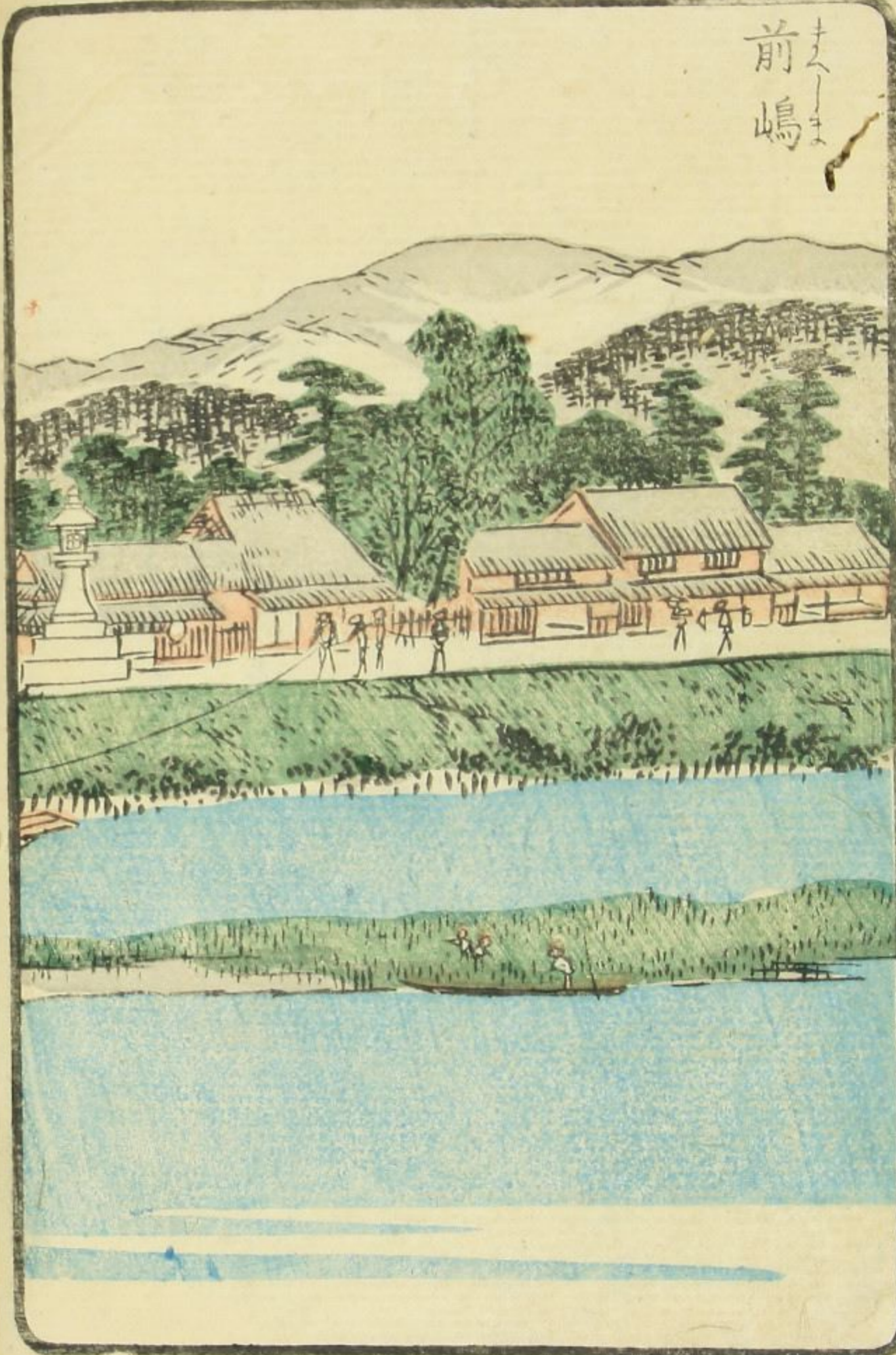
ま

女連れ

小便と

船つけ

ナ  
リ  
ハ  
ナ



前嶋

左

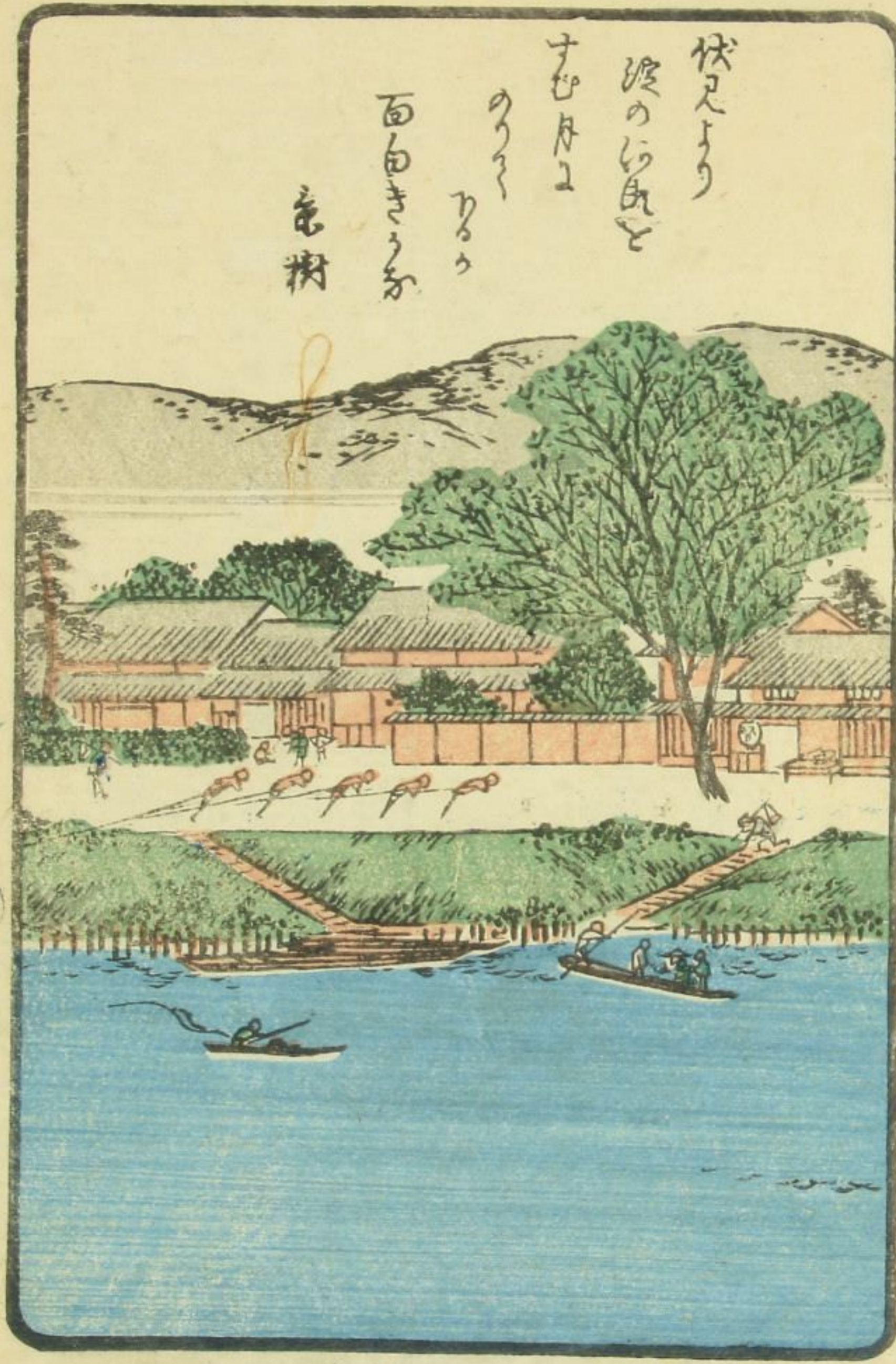
大塚

のり船の水まき  
お塚の下よりよそ  
三町ぞり曳上げ  
いづれか  
橋尾川より船よ  
うらうらみさ  
とらうら



伏見より  
渡のしめと  
すむ月よ

のり  
りる  
面白きうか  
も樹



當城下の西街道と陸路より下る旅人山等より此の山ありまゝ唐寺に出で  
三つに柱がもつたの河辺と行き其より高月と書け丸國の時  
大木の榎樹あり是と本陣と定められしより榎の字に改むと云城主の最初と  
逆友連といふ是と高月と稱れしとぞ

野見神社

例祭九月十四日撰社八幡宮八幡町にあり

芥川

番田村の下にあり水源山別と訓郡外畑の山中より本郡原村にあり  
本山溪と合し服部芥川と稱れしと云

芥川村に此川條の水より西國往返の官道あり則一箇の

驛として旅舎茶店多く平生賑わし

兼

人として芥川に津國の形ありたがらぬおとぞなりなり 兼香殿 中納言

兼

はの國のやうやん人と芥川君をばはるに遊んと思へり 兼香殿

早稲田大学図書館

011688994847